

様式1 長野県飯山高等学校 探究活動ルーブリック(2021年度版)

No.	評価観点	AA	A 本校の目標水準	B	C
1	課題発見力	○これまでに例がない(先行研究がないなど)独自の課題を設定した。	○目的(ねらい)と目標(ゴール)を明確にした。 ○先行研究や背景を踏まえており、科学的または社会的な研究意義を説明することができた。 ○課題を自分事として捉え、必要感を持っている。	○研究の目的または目標が明確でなかった。 ○自分なりの問題意識に根ざした課題を設定したが、科学的または社会的な研究意義がわからない。	○先行研究を踏まえていない。 ○他者に頼って課題を設定した。
		A B	B		
2	課題設定力	○取得したデータや情報を反映させて、課題を新たに設定して研究した。	○仮説の根拠が明確で説明できる。 ○目的を達成するため、仮説を実証するために取得すべきデータや情報を明確化した上で、調査や実験の方法を考えた。	○仮説の根拠が不十分である。 ○研究計画(調査や実験の方法)を立てて取り組んだが、どのような情報やデータを取得すべきかが明確でなかった。	○場当たりに実験や調査に取り組んだ。 ○仮説や調査の目的が不明確である。
		A B	B		
3	情報活用力	○データ収集の際、同じ方法での実験・調査を繰り返すだけでなく、異なる方法で検証を行うことで、結論の信頼性を高めた。	○自分で実験や調査を行い、多面的で多くの情報を取得した。 ○複数の実験や出典に基づき、データや情報の信頼性を検討した。 ○データや情報を適切な方法(データの変換、グラフ化、図式化など)によって、整理・比較して、差の有無や内容の正しさを判断した。	○複数の情報源や異なる見解を参照しながら、より客観的に情報を収集した。 ○情報を比較し、類似点や相違点をまとめ、規則性や傾向などを見いだした。	○実験回数が1回、取得した情報が1つなど情報数が不十分である。 ○インターネット等からの情報の妥当性を吟味しなかった。
		A B	B		
4	協働力	○異なる視野からの発想や意見や対立する考えを調整して探究を進めた。	○お互いが正しいか常に考えて議論(相手の意見を理解し、自分の意見を主張)を繰り返し、研究を推進することができた。	○異なる考えを受け入れる意識を持つことができた。 ○実験や調査、発表において、チームで協力することができた。	○協力できず、他者に任せきりになった。
		A B	B		
5	情報発信力	○独自の図や表などを作成した。 ○アイコンタクトなど非言語表現も有効活用し、質疑応答にも自信を持って対処できた。	○適切な表現方法(図、グラフ、表など)を用いてまとめることができた。 ○発表原稿にほとんど頼らず、スライドを指し示し、わかりやすく発信できた。 ○質問にも概ね対応できた。	○図、グラフ、表などを作成したが、不適切な点があった。 ○発表原稿を読んでいることが多い。 ○質問に的確に対応できないことがあった。	○図や表が少なく、文章での表現が多い。 ○発表原稿を読むだけの発表だった。
		A B	B		